

昭和31年1月24日第三種郵便物認可 令和5年5月5日発行（隔月1回5日発行）「燈光」第68巻・第3号

# 燈光



5

# 灯台守の在りし日を偲ぶ句碑、現在の灯台の下へ

紀伊日ノ御埼灯台にまつわる千鳥の句碑

田辺海上保安部

瀬戸内海と太平洋の境目に位置する紀伊日ノ御埼灯台には、灯台における悲しき思い出を詠った千鳥の句碑が2基建立されております。

この2基は、師弟関係でもあった高浜虚子と内田灯台長の俳句を刻んだ句碑であり、それぞれ2代目紀伊日ノ御埼灯台の付近に建立されていきました。平成28年に現在の3代目灯台が新設された際、高浜



(右)「妻長女三女それぞれ啼く千鳥」虚子  
(左)「妻長女三女の千鳥飛んで来よ」稲人

虚子の句碑は移設されましたが、内田灯台長の句碑は移設することが出来ず、現在の灯台とは全く離れた場所にある状態が続いております。

句碑が灯台の近くにならない事は忍びなく、灯台の下へ句碑を移設することは長年田辺海上保安部の悲願でありましたが、今年2月晴れて句碑を移設することができました。

現在、3代目の紀伊日ノ御埼灯台の下には高浜虚子と内田灯台長の句碑が並んで安置されており、句碑に刻まれた灯台長の悲しみや師弟愛の美しさは、灯台を訪れる多くの方々に感動を与えております。

今回は、内田灯台長にまつわる悲話についてご紹介をさせていただきます。

なお、この話はこれまで発行された「燈光」においてもご紹介されており、ご存じの方も多いのではないかと推察されます。

まもなく戦後80年を迎えようとする中、内田灯台長

が残した「守灯精神」を風化させてはいけないと思ひ、僭越ながら筆を執らせていただいた次第であります。

内田灯台長（内田十二・うちだじゅうじ）は、群馬県安中出身であり、大正12年に初任地である観音埼灯台（神奈川県）を皮切りに紀伊日ノ御埼灯台、百貫島灯台（愛媛県）などに勤務を重ね、昭和15年には再び紀伊日ノ御埼灯台において25代目灯台長として着任、以後和歌山県下の灯台長や四国の航路標識事務所長を歴任されたのち、昭和37年に小名浜（福島県）で退官されております。

内田灯台長は昭和12年に勤務していた百貫島灯台の灯台長から手ほどきを受け、俳号を稲人（とうじん）と名乗り、俳句の道に入られました。

一説によると、『内田灯台長は12月生まれであることから内田十二（じゅうじ）と名付けられ、12月に掛けて「冬至」から俳号を「稲人（とうじん）」とした』話もあり、非常にユーモラスな方であったのではと想像されます。

内田灯台長は、大正から昭和にかけて活躍した俳人高浜虚子が主催する「ホトトギス」に所属し、俳句雑誌で名を成しながら、昭和15年には灯台長として紀伊日ノ御埼灯台に着任することになります。

日ノ御埼に着任後は、近くに所在する三尾村（現和歌山県日高郡美浜町三尾区）の俳人に誘われ、岡本無漏子氏主催の「藻の花」（句会）の句友となります。仕事に興味に全てが順調であった灯台長は、この紀伊日ノ御埼灯台において思ひもかけぬ災難に巡り合うこととなります。

太平洋戦争も半ばを過ぎる頃から、京阪神地区の爆撃に向かうB29は常に日ノ御埼上空を通過しました。

灯台も例外ではなく、昭和20年7月21日には機銃掃射を受けハリ板・回転機械等が大破、同月30日には小型爆弾の投下により燃料庫に引火し灯塔が全焼、明治28年創建以来50年に渡り紀伊水道の暗夜の海を照らし

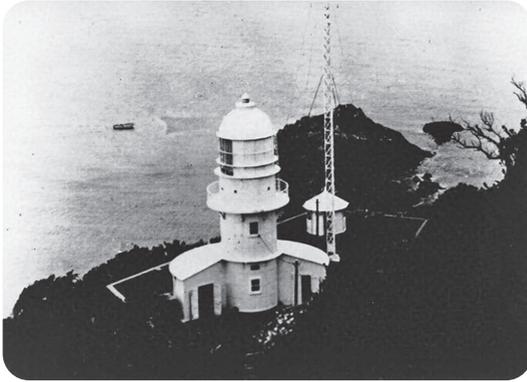


戦災後の初代紀伊日ノ御埼灯台  
（美浜町史より）

続けた灯台の灯は消えてしまします。

内田灯台長は壊れた灯台に仮灯を灯し、辛うじて灯火を守りながら終戦を迎えます。

終戦後、ようやく平穏な生活に戻ったのもつかの間、三尾村では赤痢が流行しており、昭和20年11月には灯台長の長女豊子さん（12歳）、妻薫子さん（34歳）、三女紀久子さん（6歳）が赤痢に感染、戦後の過労と栄養欠乏により治療の甲斐なく、相次いでお亡くなりにな



初代紀伊日ノ御埼灯台  
文化遺産ホームページから  
<<https://bunka.nii.ac.jp/db/>>

なってしまいます。灯台長はご家族3名を茶毘に付し、わが手で焼き、人知れず灯台近くの地に葬ったそうです。

娘の棺に独り従ひ石落の道

稲人

わずか10日ばかりの間にご家族3名を亡くされながらも、当時の灯台には終戦直後の人手不足の影響か内田灯台長しかおらず、灯台長は過酷な状況に遭いながらも、たった一人で海上の交通安全のため壊れた灯台で灯を灯し続けたのです。

昭和21年2月、「藻の花」岡本無漏子の発起で三尾法善寺において、異郷に寂しく逝った内田灯台長のご家族の追悼句会が開かれることとなりました。内田灯台長は、俳句により結ばれた高浜虚子の弟子達の親切に感激し、これまでの出来事を俳句の師である高浜虚子に報告しました。報告を受けた高浜虚子は、家族を失った悲しみに耐えながらも灯台を守り続ける灯台長の心情を憐み、内田灯台長に対し

妻長女三女それぞれ啼く千鳥

虚子

と哀悼の句を捧げます。

時を経て昭和24年、内田灯台長は和歌山港北防波堤灯台の灯台長への配置換が決まったことから、「藻の花」岡本無漏子主催の三尾法善寺において灯台長の送別

句会が開かれました。

その送別句会で、灯台長は在りし日の思い出を偲び、

妻長女三女の千鳥飛んで来よ 稲人

との句を残しました。

この灯台長の句は昭和25年2月のホトトギスに掲載されたことで多くの人の心を引きつけ、元灯台局長 森田 富士助氏により高浜虚子の弔句を句碑にする提案があり、大久保海上保安庁長官や柳沢海上保安庁次長



高浜虚子の句碑と二代目紀伊日ノ御埼灯台

の賛成のうえ、昭和26年10月、2代目紀伊日ノ御埼灯台の点灯式に合わせ、高浜虚子の句碑が灯台正門に建立されることとなりました。

高浜虚子の句碑の除幕式の際は、各地から俳人など数百名が来られたとされており、祝電として、

千鳥飛べばわれ在るものと思うべし 虚子

妻長女三女の千鳥今日愉し 橙青

(大久保海上保安庁初代長官の俳号)

という句が送られ、内田灯台長の二女百合子さんにより除幕されたようです。

一方の内田灯台長の句についても句碑を建立する話がありました。内田灯台長からの「不幸を記念する句碑は虚子先生の句碑1基で十分」との主張もあり中々実現が行われませんでした。

しかし、三尾村の村長 大森 喜代蔵氏が、当時灯台長が務めていた甲ノ浦航路標識事務所(高知県)まで来られ説得されたことで、灯台長も「紀伊日ノ御埼灯台在勤12年半(8分の1世紀)記念」という事で妥協し、昭和32年6月、2代目紀伊日ノ御埼灯台を見下ろす日ノ岬パークの一隅に灯台長の句碑が建立されることとなりました。

灯台長の除幕式では祝電として、

洪水綿の香りも高く句碑の建つ 鳥居辰次郎  
(海上保安庁4代目長官)

という句が届けられたそうです。

また、内田灯台長についても、ご家族を亡くされた時を思い出し（日ノ御埼を去って8年になるのに）この地に句碑を建立していただいたご厚意に感激したのか、涙がとめどもなくなっていたと紹介されています。

こうして晴れて2基の句碑が完成した後、2代目の紀伊日ノ御埼灯台を訪れた多くの人々は、句碑を前にし、時代を超えて灯台長の悲しみや師弟愛の美しさに心をうたれることになりました。



内田十二氏と同氏の句碑  
(美浜町史より)

時代は変わり平成28年、2代目灯台の敷地が崩落の危機にさらされ、現在の位置に3代目灯台が新設されます。

この時、灯台正門付近にあった高浜虚子の句碑は、(当時句会が行われていた)法善寺の住職が会長を務める地元の文化協会により、現在の灯台の下へ移設されています。

一方で内田灯台長の句碑は、設置されている敷地が



法善寺住職により、白ペンを入れていただいた句碑

町有地から私有地へ変更されていることもあり移設が難しく、句碑から灯台を見ることが出来ない状況が続いておりました。

このようなところ、この度田辺海上保安部の向井大幸次長により、句碑の謂れなどを土地所有者に説明したところ、所有者にもご理解をいただき、移設を快諾していただけることになりました。

移設時は、公益社団法人燈光会様を始め多くの方にご尽力をいただき、内田灯台長の句碑は灯台の下へ、さらに師である高浜虚子の句碑の横に安置されることとなったのです。

高浜虚子と内田灯台長（稲人）、師弟一对となる千鳥の句碑は、最愛の妻子3人を亡くした悲傷、また、自身の過酷な状況にも関わらず日本の海、そして人命のために灯台の灯を守り続けてきた「守灯精神」をとこしえに伝えていくでしょう。

紀伊日ノ御埼灯台は、令和4年2月にNPO法人日ノ岬・アメリカ村が航路標識協力団体として指定されており、毎月第3日曜日には灯台の一般公開が行われています。

今回移設した句碑は、灯台の一般公開時、地元の話り部の方により、昭和、平成、令和と時代を超えこれ

からも語り継がれていきます。

灯台の親子千鳥の今日も啼く

稲人



（左側から）岡本法善寺住職、小藪三尾区長、真部田辺海上保安部長、中口大杉建設株式会社常務執行役員

参考文献一覧

大久保武雄 「海鳴りの日々」

昭和53年6月刊

海洋問題研究会

燈光会

「燈光」

昭和26年11—12月刊

社団法人燈光会

燈光会 「燈光」

昭和32年8月刊

社団法人燈光会

燈光会 「燈光」

平成16年4月刊

社団法人燈光会

燈光会 「燈光」

平成20年12月刊

社団法人燈光会

西脇久夫 「燈台風土記」

昭和55年11月刊

社団法人燈光会

美浜町 「美浜町史 下巻」

平成3年3月

美浜町

美浜町 「美浜町史 史料編」昭和59年10月

美浜町



# みちのく灯台プロジェクト

## 「長渡港東防波堤灯台復旧記念式典」開催

宮城海上保安部交通課



長渡港（ふたわたしこう）東防波堤灯台（宮城県石巻市網地島長渡港）は、金華山灯台が所在する金華山の対岸にある鮎川港の沖合約4キロメートルに位置する網地島の長渡港に所在し、平成6年11月28日の初点灯以来、長渡港に出入港する船舶の安全を見守ってきました。

この灯台は、平成21年11月26日、港湾管理者である石巻市が実施する防波堤の補強工事のため、一時的に撤去していたところ、東日本大震災により港が被災したことにより、その後の復旧が遅れていましたが、令和4年12月22日、復旧に至りました。

これを記念し、令和5年3月4日、宮城海上保安部は、みちのく灯台プロジェクトの一環として、長渡港において「長渡港東防波堤灯台復旧記念式典」を挙行いたしましたので、その概要を次のとおりご紹介いたします。

### ●長渡港東防波堤灯台復旧記念式典

令和5年3月4日（土）、離島航路を運航する網地島ラインの長渡港入港予定時刻にあわせた午後3時10分からの式典開催を間近に控えた長渡港では、5年前の灯台150周年にあわせて収録された海上保安庁音楽隊の演奏によるイギリス民謡「灯台守」が静かに流れ、来賓者をお迎えしております。

世の中、コロナ禍が少し落ち着いてきたとはいえ感染防止対策として三密回避を徹底するため、また、長渡港東防波堤灯台の付近には大きな集会所等もなかったことから、灯台を間近に見ることが出来る防波堤先端で開催することとしたこの式典は、関係者がギリギリまで天候を心配していたところ、晴天には恵まれたものの、事前に会場に展示していたパネルや設置していた椅子も強風に煽られて飛ばされてしまう位の生憎の強風となってしまうことから、式典開始の1時間

前に開催場所を風が幾分か穏やかな港の奥側に変更しました。

このため、さつきまで息を切らしながら会場変更に係る設営作業にあたった3人のスタッフでしたが、式典を直前に控えた今となつては、息を整えて落ち着いて来賓の皆様をご案内しております。

そして定刻を迎えた午後3時10分、記念式典が挙行されました。



復旧した長渡港東防波堤灯台



式典の開催状況

はじめに、司会者から令和8年に金華山灯台点灯150年を迎える金華山灯台等の航路標識の歴史と長渡港東防波堤灯台復旧までの歩みが説明され、続いて安尾博志宮城海上保安部長から「長渡港東防波堤灯台や金華山灯台をはじめとする県内の航路標識が、点灯以来の永きにわたり、付近を航行する船舶の安全を見守つてこれたのは、日々灯台を見守つてくださっている地域の方々のご支援の賜物。引き続き、長渡港や金華

山沖をはじめとする宮城県の海上交通の安全を確保し、安全かつ効率的な船舶の航行の実現に努め、地域の方々の期待と信頼に応えてまいります。」と挨拶申し上げます。



宮城海上保安部長あいさつ

次に来賓者代表として齋藤正美石巻市長から「夜間等長渡港に入出港する船舶の安全のためにも、離島復興としても長渡港東防波堤灯台は重要であり、復旧は大変ありがたい。また、本日の式典により、不便な生活環境と困難な勤務条件の中、職務を遂行してきた職員の方々のご苦労と、石巻市に所在する金華山灯台が令和8年に点灯150周年の節目を迎えることを知ったので、是非、金華山灯台点灯150周年記念式典を盛大に開催しましょう。」との祝辞を頂きました。

続いて、今般の灯台復旧にあたり、地域の皆様から長く愛される灯台となるよう灯台銘板への揮毫について石巻市立鮎



石巻市長祝辞



灯台銘板揮毫者紹介

川小学校に依頼したところ、網地島在住の同小3年生の嶺岸美虹さんに揮毫していただいたことから、嶺岸さんに宮城海上保安部長から記念品として「長渡港東防波堤灯台銘板レプリカ」及び「うみまるくんぬいぐるみ」を贈呈しました。嶺岸さんからは「何度も何度も書き直して大変でしたが、無事に書けてよかったです。」との感想を頂き、出席者から一際大きな拍手が鳴り響きました。



長渡港東防波堤灯台 銘板

そして15時30分、式典は無事に終了いたしました。

最後に、長渡港東防波堤灯台復旧記念式典の実施にあたり、これまでにご多くのご支援・ご協力をいただきました公益社団法人燈光会をはじめとする関係者の皆様に対し、誌面を借りて御礼申し上げます。



記念写真

## 祝 長渡港東防波堤灯台 復旧

長渡港東防波堤灯台は、石巻市網地島の長渡港に位置し、平成6（1994）年11月28日の初点以来、長渡港に入出港する船舶の安全を見守ってきました。

平成21年、防波堤の補強工事のため灯台を一時的に撤去していましたが、令和4年12月に復旧しました。

長渡港東防波堤灯台が、今後とも長渡港の海上交通の安全に寄与することを祈念いたします。



参考\_長渡港東防波堤灯台紹介パネル





…  
…  
樺島灯台90周年祭りに協力して  
最後の灯台守のご講演

長崎海上保安部

令和5年3月25日（土）、野母崎樺島地区コミュニティ連絡協議会、灯台文化的価値探求プロジェクトin長崎県実行委員会主催の「樺島灯台祭り」が開催されました。コロナ禍を踏まえ、近隣にお住いの方に限定しての3年ぶりの開催でした。以前までの祭りとの違いは、同2月22日、樺島灯台の航路標識協力団体として指定された長崎市、(株)テレビ長崎の強力なバックアップが加わっていることです。

来場客には感謝のおもてなしとして、主催者側からコーヒーやお団子、クッキーが振舞われ、餅まき、タイムカプセル開封式等のイベントが実施されました。途中、サプライズとして北九州航空基地所属のファルコン（MAJ577）のローパスもあり、会場は歓喜の声に包まれました。

イベントの中の1つに、樺島灯台最後の灯台守「中尾信幸」氏の講演会があり、地元の方々と当時の話題で盛り上がりましたので、当時の画像と講演会内容を

紹介されます。中尾氏は平成19年3月に当庁を退職され、昭和45年の1年間に、樺島灯台の最後の灯台守として勤務されました。

【内容】※原文のままです。（中尾氏のご了解を頂いております。）

ただいま紹介がありました、半世紀前にこの樺島灯台で最後の職員として勤務をしました中尾です。この



講演の様子

度、樺島灯台90周年祭りに招かれましたので良い機会と思い、当時の樺島灯台にまつわるお話と航路標識保守を行っていた、いわゆる灯台守の生活の一旦をとりとめない話にはなるうかと思いますが、紹介させていただきます。

樺島灯台は昭和7年7月1日点灯しましたが、このときの灯台名称は野母埼灯台でした。樺島灯台に名称変更されたのは、21年後の昭和28年7月1日でした。



中尾信幸氏

ではなぜ最初から樺島灯台の名称にならなかったと言  
うとこれには裏話がありまして、樺島灯台が設置され  
た時代、灯台業務を所管していたのは当時、郵便・通  
信・運輸を管轄する逓信省でした。この逓信省が野母  
埼の先端部に灯台を設置する目的で数年にわたり予算  
を請求していました。ようやく予算がつき、灯台の建  
設にかかろうとしていたところ、有明海方面に出入り  
する船舶にたいして標高1130メートルある樺島が  
視界の障害になるということになり、急遽、樺島側に  
設置場所を変更せざる負えなくなりました。ここで問  
題となったのが、灯台の名称でした。灯台の名称は設  
置場所の海図地名とすると決まっていたので本来は、  
樺島灯台とすべきであったが、大蔵省への予算要求は  
ずっと野母埼灯台で実施していたため、どうしたもの  
かと思案し、大蔵省と内々に相談したところ、予算上  
に全く現れていない名称を使用することはまかりなら  
ん、と言うことになり、野母崎と樺島は隣り合わせで  
あるから、少々位置をずらした程度の軽い意味で工事  
を始め、やむなく海図の地名と符合しない野母埼灯台  
となったわけです。

昭和23年5月1日海上保安庁が発足し、所管が灯台  
部となりました。その後、昭和28年7月1日樺島灯台

と名称変更され、現在に至っています。昭和7年の設  
置時には石油白熱灯火でしたが、昭和39年9月26日商  
用電力が導入されて電球となり、明るさも14万カンデ  
ラから120万カンデラとなりました(8.5倍)。

沖合約43キロメートルまで届く20秒に1閃光の光は  
航行する船舶の安全を願って暗夜の夜を照らしていま  
す。

皆さんご承知のとおり、灯台は岬の先端などに位置  
し、当初は職員が家族と共に現地で生活しながら保守  
していました。昭和30年頃から生活基盤をより環境  
の良い場所へ移そうと全国的に勤務場所の集約を行う  
ようになっていきました。こういう流れの中で、(樺島、  
伊王島、蔭ノ尾)の3事務所を長崎市内に集約すべく  
昭和45年に、無人化工事が始まりました。その準備の  
ため、集約後の新事務所運用も考慮し、地域情勢に明  
るい長崎出身でピチピチの若者であった私が送り込ま  
れたわけです。

海保校卒業後初めての勤務地は、北九州の関門海峡  
周辺の航路標識を管理する職員数40名の関門航路標識  
事務所でしたが、赴任後1年で樺島航路標識事務所に  
発令をうけました。大規模事務所から職員2名の事務  
所への移動を命ぜられ、その規模と業務量・生活環境

のギャップにカルチャーショックを受けたものです。引越しには当時高校生だった弟が手伝いに来てくれましたが、脇岬から見える樺島灯台を見て「本当に、あんな場所で勤務するの？」とげんげんな顔をしていたのを記憶しています。

当時脇岬と樺島をつなぐ樺島大橋は架かってなく、渡船で往来しており、大変不自由な思いをしていたものです。

樺島航路標識事務所では樺島灯台のほか、脇岬・野母崎地域にある7基の灯台を15日周期で点検管理していました。

島内には食堂が一軒もなく、必然的に自炊をすることになりました。生活用水は天水をろ過し、それを井戸に貯水したものを使用していました。着任した日の夕食は手っ取り早い、すき焼きにしようと考え、島で唯一の肉屋さんに行き牛肉を求めたのですが、鶏肉・豚肉しか置いていなく、店主が言うには「牛肉が必要なときは、2日前に注文してください」とのことでした。しかたなく豚肉を購入し豚肉すき焼きをした記憶があります。その後の1年間は手がかからない、おでん・カレーライスをしぼしぼ作り過ぎました。

一方、魚は潤沢で、自分で調達したり、漁業関係者

からおすそ分けしてもらったりで、いつも新鮮な刺身を食べることができました。時には町のお母さん方から「灯台のアンチ〜おかずができたから持って帰り〜」と声をかけてもらったり、とても親切にしてくださいました。

着任後は次年度に長崎航路標識事務所集約を見据え、無人化のための工事に立ち合い、新しい機器操作の習得に努めるなど当初考えていたよりかなり忙しい1年間でした。

ある時には雷の障害で停電とともに、誘導雷による制御機器の故障が生じ、予備エンジンに切り替え、徹夜で修理をしたりしたこともありました。一方、都会では味わえない楽しい経験もしました。当時風呂屋さんが1軒あり、風呂が午後3時頃に沸くのですが、灯台まで電話をかけてくださり、一番風呂を味わっていました。天気が良い日には島民のお嬢さんが弁当を作り灯台まで登ってきては一緒に食べませんかと声をかけてくれました。行者まつりの際は、社の照明のため、灯台から電源を提供して夜の祭りに協力したりしました。梅雨の時期にはしばしば出てくる20センチメートルほどあるムカデに悩まされました。昼間であるといのだが、夜寝ている時に手にごそごそ上って来

ることがあり、対策として半袖シャツを着る習慣がつきました。天候が良い日の星空は至福のひと時を味合わせてくれました。

3月半ばには鶴の渡りに遭遇しました。鹿児島方面から数十羽の鶴が灯台をめぐって飛来し、一旦海岸で休憩した後、灯台を中心に回りながら上昇し、上昇気流に乗った後、北方へ渡っていきました。

今では無人島で世界遺産となっている端島炭鉱がまだ稼働中で、暗くなると島全域が明かりで煌々と輝き、長崎の明かりを思い出させ、郷愁を誘いました。1年後の昭和46年4月1日磯道町に建設された長崎航路標識事務所が発足し、自動化された樺島灯台は定期的な保守作業を行う灯台となりました。

昭和50年10月に長崎航路標識事務所を離れた後（10月15日付けで発令を受け、長男は17日誕生したため病院で顔を眺めたその日に勤務地呼子航路標識事務所に向かった）は一度も長崎に勤務することなく、東京の地、北は宮城県の塩釜市、南は宮崎県の日南市と38年間で15の勤務箇所を経験し、神戸にある第五管区海上保安本部を最後に海上保安庁勤務を終えました。この間、出張中に子供が生まれたり、やむなく単身赴任したりと、思い返すとあっとい間の人生でしたが、変

化にとんだ勤務地での経験は何ものにも代えがたい思い出を織りなしてくれたと感謝しております。

講演後に質疑があり、その一部をご紹介します！

地元の方① 何代か前の所長さんだった◎◎さんは知っていますか？

中尾氏 知っています。

地元の方② お嬢さん方がお弁当を作ってきてくれた話を詳しく！

中尾氏 私はオーディオを持っていたので、一緒に音楽を聴いたりしていました。

地元の方③ 地元の方との関わり合いは他にありますか？

中尾氏 地区の運動会に来賓として招かれましたが、地元の人から勧められ、そのまま対抗リレーに出て走ったりしました。

地元の方④ 何代か前の灯台守の娘さんが灯台から小学校に来て、先生をしてくださっていた。

その方をご存じですか？

中尾氏 話には聞いたことがありますが、詳しくは。。。。

# おらが町の灯台をたくすんの人に見てもらおう

## 佐田岬灯台の航路標識協力団体に伊方町を指定

松山海上保安部

令和3年に航路標識協力団体制度が創設されて全国各地の54基の灯台で協力団体が指定されています。この度、愛媛県においては初となる佐田岬灯台の協力団体に伊方町が指定されましたのでこの場をお借りし紹介させていただきます。

いて到着するのですが、四国有数の風光明媚な観光地となっており、そこへ辿り着いた誰もが灯台に登りたい心情を抱きます。

大正7年に設置された佐田岬灯台は、鉄筋コンクリート造りの大型灯台としては国内最古であり、国の登録有形文化財に指定されています。また、日本の灯台50選、恋する灯台にも認定されています。付近は、灯台近くの御籠島エリアも含めて公園となっており、平成29年に伊方町により佐田岬灯台100周年記念事業の一環で再整備されました。

佐田岬半島は長さ約40キロメートルの日本一細長い半島で、岬先端は四国最西端にあたり、灯台には遊歩道を約20分歩



愛媛県主要観光地の佐田岬  
左：御籠島 右：佐田岬半島



佐田岬灯台



松山海上保安部による伊方町学芸員等への灯台説明



日本財団支援事業によるグランピング実証実験  
画像出典：佐田岬灯台エリア再開発プロジェクト実行委員会

松山海上保安部では、かねてから佐田岬灯台をもっと地域に活用頂けるのではないかと考えていたところ、タイムリーに航路標識協力団体制度が創設され、その制度に関して伊方町の関係者へ説明してまいりました。

また、令和4年度から日本財団支援による佐田岬灯台等の観光振興利活用モデル事業として「海と日本 佐田岬エリア再開発プロジェクト」が始まり、これにも積極的に参画し協力しています。

このような取組みにより、伊方町から、佐田岬灯台の協力団体として是非活用させて頂きたいとの意向が示され、協力団体の指定申請手続きを経て、本年2月に指定されるに至りました。

3月23日に松山海上保安部長から伊方町長へ協力団体指定証の交付を行いました。伊方町の高門町



伊方町役場での指定証交付式  
左：高門町長 右：木室部長



報道向けの灯台公開

長から、「おらが町の灯台をたくさんの人に見てもらいたい。これから町が灯台を活用できることは大変うれしく思う。」とコメントされました。その後、報道向けの灯台公開も行いました。

伊方町は、これまでも灯台構内の環境整備、灯台の歴史から内部まで紹介したリーフレットを作成するなど十分な活動を行っていますが、今後はこれに加えて、学生の社会見学などの教育、地域のイベントと合わせた一般公開など様々な活動が期待されます。

松山海上保安部としても、伊方町の協力団体活動を全面的に支援していきたいと考えております。

# 航路標識協力団体指定証交付式の開催

「ご当地ソングの女王と細島灯台の魅力を発信！」

宮崎海上保安部

令和5年3月15日（水）細島灯台に於いて、一般社団法人日向市観光協会に対する「航路標識協力団体指定証交付式」を日向市主催の「日向市観光大使委嘱式」と同時開催しました。

宮崎県日向市の日向岬に所在する「細島灯台」は、明治43年5月10日の初点から今年で113年を迎え、



式典出席者による記念撮影



多くの観客で賑わった細島灯台

平成31年3月29日には国の有形文化財にも登録されている歴史ある灯台であるとともに、国の天然記念物「馬ヶ背の柱状節理」があり年間15万人の観光客が訪れる観光スポットである日向岬のシンボルともなっている灯台です。

このため、今回、細島灯台の航路標識協力団体に指定を受けた一般社団法人日向市観光協会に対する指定証交付式についても、「多くの市民に愛されている細島灯台らしい盛大な式典」にすべく宮崎海上保安部交通課担当者が頭を悩ませていたところ、演歌歌手で本年1月にご当地ソング「日向岬」をリリースした水森かおりさんが日向市の観光大使に就任するとの情報が入手。また、同曲の歌詞には「日向岬の灯台よ〜♪」と出てくるではありませんか！（紅白歌合戦20年連続出場中の水森さんは、これまでに144曲のご当地ソングをリリースし、「ご当地ソングの女王」と呼ばれています。）

これはチャンス！と日向市の担当者にすぐさま連絡をとったところ、細島灯台を含む日向岬一体の魅力発信のため快く承諾をいただき、今回見事、指定証交付式と観光大使委嘱式を同時開催する運びとなりました。

晴天にも恵まれた式典当日は、600名を超える応募者の中から抽選で選ばれた市民及び報道関係者等約150名の観客が見守る中、まず初めに日向市観光大使委嘱式が執り行われ、日向市長から水森かおりさんへ委嘱状等が交付されました。

続けて執り行った航路標識協力団体指定証交付式では、日向市長及び水森かおり日向市観光大使にもご臨席いただき、日頃から細島灯台の普及活動や環境整備にご尽力いただいている一般社団法人日向市観光協会に対して、宮崎海上保安部長から「指定証」と「細島灯台レプリカキー」（昨年に引き続き作成した交通課職員お手製の記念品であり、今年もLEDライトによる点灯機能付きです。）を交付しました。

そして最後は、観客みんながお待ちかねだった水森かおり日向市観光大使によるご当地ソング「日向岬」の披露があり、会場は大盛り上がり。のうちに無事全ての次第が終了となりました。



式典終了後は、関係者の方々から「大盛況でしたね。」と嬉しい言葉をいただくとともに、今回指定を受けた一般社団法人日向市観光協会担当者からも「今日の交付式に負けないよう、これから細島灯台を盛り上げていきます。」との頼もしい言葉をいただきました。

当日の様子は、TVや新聞で大きく報じられ、日向市及び水森かおり日向市観光大使とともに開催した今回の式典を通じて、改めて多くの方に細島灯台の魅力伝えることができました。宮崎海上保安部ではこれからも航路標識協力団体を始め多くの方々と一緒に細島灯台の魅力を発信していきます。



日向市観光大使委嘱式での一幕



日向市長祝辞



航路標識協力団体指定証及び細島灯台レプリカキーの交付



「日向岬」を披露する水森かおりさん



宮崎海上保安部長挨拶



最後は細島灯台にて記念撮影

# 白洲灯台フェス in 博物館 (準備編・上)

若松海上保安部

若松海上保安部交通課が管理する白洲灯台は今年9月1日に初点から150周年を迎えます。

昨年は本冊子で紹介しましたとおり、私財と一命を投げ打って白洲灯台建設を始めた岩松助左衛門いわまつすけざえもんの没後150年でしたのでその功績を偲び、顕彰櫓や顕彰碑がある小倉城にてイベントを実施しましたが、その際、共同主催として協力していただいた北九州市や市立自然史・歴史博物館のご厚意により、今年は白洲灯台150周年を祝う記念イベントを同博物館(通称…いのちのたび博物館)にて行うこととなりました。

## 【企画趣旨】

響灘の藍島南西2キロメートルほどにある白洲には明治6年9月設置の白洲灯台が日々、関門海峡を行き交う船舶の安全を守り、来年9月には初点から150周年を迎えます。

この白洲付近は幕末・維新の頃、海難事故が後を絶

たなかったことから、現在の小倉北区長浜で生まれた岩松助左衛門が私財を投じて灯台建設を発起し奔走、灯台の点灯を見ることなく、亡くなったものの翌年には明治政府により完成し、現在まで灯し続けています。

昨年は同翁の没後150年の節目として、命をかけて船舶往來の安全を願った同翁を偲び、イベントを実施しましたが、引き続き今年度の夏休み期間には北九州市立自然史・歴史博物館(通称…いのちのたび博物館)において、白洲灯台がこれからも安全運航の道しるべとして機能し続けるよう、同灯台の役割を伝えていくイベントを企画しています。なお同博物館近くには明治・大正期に日本の近代化を支えた官営八幡製鉄所跡や東田第一高炉跡もあることから、併せて歴史的価値について学べるよい機会となります。

## 【企画概要】

■名称 白洲灯台フェス in 博物館

■ 場所

北九州市立自然史・歴史博物館  
北九州市八幡東区東田2-4-1

■ 日時

企画展示については6月26日(月)～9月3日(日)

■ 内容

150周年記念イベントは7月30日(日)  
・博物館により岩松助左衛門翁や白洲灯台等関連古文書、青春座資料など企画展示

(歴史ポケットミュージアムコーナー room 9)

イベント当日は午前午後各1回展示物説明会実施

・博物館でパネル、模型及び灯台レンズなど現物の展示(樺島灯台資料館から借用)

(歴史ポケットミュージアムコーナー room 10)

・イベント当日には博物館内研修室にて親子連れ(先着順・午前午後合計40名限定)向けミニ灯台製作(ペットボトルなどを活用し、LED点灯構造とする)  
・イベント前までに灯台にまつわる俳句

■ その他

を募集し、イベント当日に小学生の部、中学生の部、高校生の部の優秀作品を表彰し、表彰式の中で発表してもらう最後の灯台守(元女島灯台最後の勤務)による「灯台守のくらし」と題したお話し会

・東田地区世界遺産ツアーと題し、官営八幡製鉄所や東田第一高炉などの見学会

・北九州市主催のクルージング(9月もしくは10月)に白洲灯台付近航行につき、港湾空港局と調整中

・今年度、写真部から優秀作品を応募していたいたいた折尾高校に150周年記念のお菓子などの製作を依頼し、博物館や小倉城にて販売(折尾高校家庭科教師から地域連携活動として協力したい旨、連絡あり)

※昨年イベントでコラボ和菓子製作の  
(株)藤屋技術支援

## 【企画展「不用展示品」】

展示物について、博物館側は明治期灯台建設関連資料や岩松家古文書などが展示されることとなりましたが、若松海上保安部側では灯台の歴史について企画展示することとなりました。

当部では展示できるものがLED灯器くらいしかないことから、各方面へ相談したところ、長崎海上保安部交通部のご協力により、長崎市南総合事務所野母崎



写真 1



写真 2



写真 3

地域センターが管理する樺島灯台資料館展示物の一部（写真1～3）樺島灯台資料館展示品を借用、また（公社）燈光会のご協力により、石油灯器やガス灯器を借用することができました。後日、門司海上保安部交通部のご協力により、灯ろうやパネルなどもお借りする予定となっています。

そのほか、関係先から提供の申し出がありました、女島灯台関連気象測器など（写真4～5）についても、何とか集まってきました。

下関市教育委員会からもとても興味深い物品（写真6〜7）などが借用できることになっています。

### 【事前展示】

北九州市立若松図書館のご厚意により、白洲灯台の模型やパネルを4月1日〜博物館展示開始までの間に図書館カウンター前に展示させていただくこととなりました（写真8〜写真11）。館長（写真8）ほか司書の方々により、案内板や関係資料から抜粋した白洲灯

台に関する資料なども準備してくださり、ペーパークラフトまで備え置かれています。北九州市では助左衛門に関する郷土史教育がなされている関係で、白洲灯台の歴史を知る人も多いところですが、同図書館館長がSNSを通じてさらにアピールしてくださっていることから、多方面から展示情報を知ることができたといった話も聞こえてきています。大変ありがたいことです。

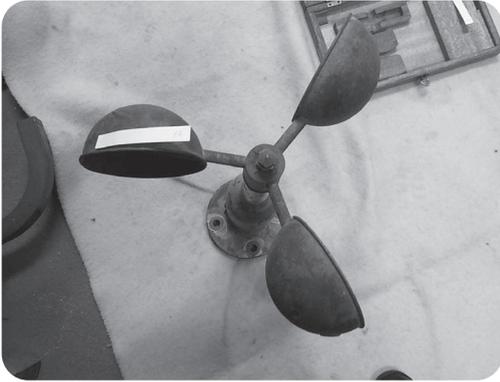


写真4 気象観測用風速測定器



写真5 気象観測用気圧計

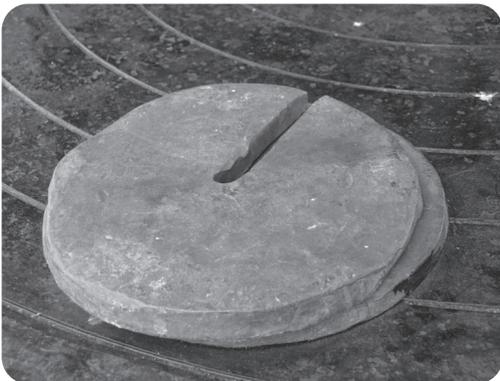


写真6 灯台レンズ回転巻揚機用分銅



写真10 白洲灯台パネル・模型展示

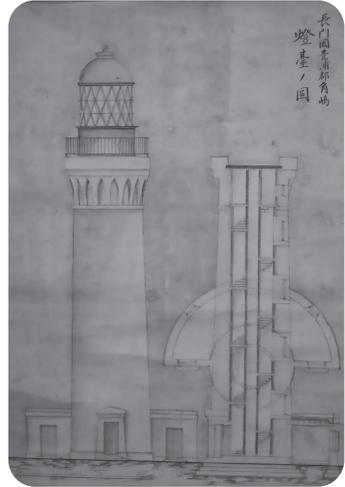


写真7 角島灯台色彩図  
(建設当時のもの)

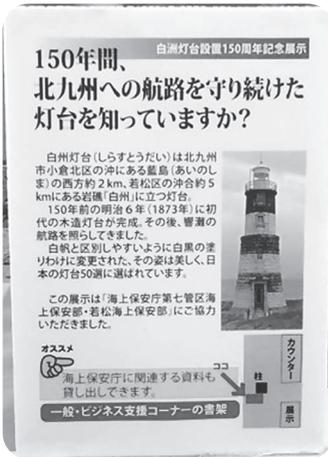


写真11



写真8 北九州市立若松図書館長

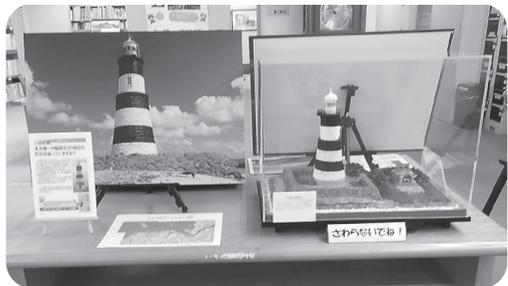


写真9 白洲灯台パネル・模型展示

与できればと考えています。

を機に灯台の普及啓発活動に寄

だけると思います。そしてこれ

るので、多くの皆様に見ていた

企画展示及びイベントを実施す

報告いたします。夏休み期間に

次回は準備編・下として、ご

【今回はここまで】

# 「海の京都の文化観光連携シンポジウム」に参加して

元四日市海上保安部 藤島 充良

## 1 はじめに

令和5年3月4日及び5日、「令和4年度海の京都の文化観光連携シンポジウム」が京都府立丹後郷土資料博物館及び京丹後市庁舎2階（京都府）において、開催されましたので、その概要について本誌をお借りして紹介させていただきます。

主催は同博物館、京丹後市教育委員会、海の京都DMO（一社）京都府北部地域連携都市圏振興社）、後援は、京丹後市、伊根町（京都府与謝郡）、伊根町教育委員会によるもので、令和4年12月20日に経ヶ岬灯台（舞鶴海上保安部管理）が重要文化財に指定されたことに伴う関連イベントとして企画されたものです。

私は、5日の午後に「現役の航路標識について」という演題にて講演を約45分行わせていただきました。

その後、関係者による「経ヶ岬灯台と文化観光資源の観光周遊活用について」というテーマにて、経ヶ岬

灯台から3キロメートル南にある伊根の舟屋群の文化資源と連携させて地域の文化的遺産を観光に生かす方策を探るパネルディスカッションが行われました。

この模様は、講演会場での聴講者のほかりモート配信が行われ、ZTVケーブルテレビで収録、放送されたため、会場に來られなかった方も多く聴講されたようです。また、この模様は、翌日の新聞2社にも大きく取りあげていただきました。



パネルディスカッションの模様

## 2 講演依頼の経緯

「縁が縁を呼ぶ」とは、これまで積み重ねた縁の駒をたぐっていき、繋がるに必要な人を繋げていくことと解されています。今回の公演依頼は、まさにこの言葉どおり、縁の繋がりと運命を感じざるを得ませんでした。

令和4年11月9日、八管本部交通部中野企画課長から突然の電話がありました。同課長とは、かつて八管本部及び金沢海上保安部にて同勤した間柄であり、かつて私も八管本部交通部企画課長を経験していたことから、電話要件は、過去の業務経緯の問い合わせと思しきところ、「経ヶ岬灯台が重要文化財への答申を受けたことから京都府立丹後郷土資料博物館等がイベントを企画しており、その際に灯台に関する講演をお願いしたい。」とのオファーでした。

中野企画課長は、令和元年の金沢海上保安部交通課長勤務時代に、加佐岬灯台70周年記念一般公開関連イベントにて私の講演を聴講しており、過去に私が「灯台ワールドサミット」や市民大学講座などで多くの講演実績があること及び私が平成13年度から平成17年度の5年間、八管本部にて技術官の経験があり、経ヶ岬

灯台ほか管内の多くの航路標識整備工事を行った経験を鑑み、講演講師の選定に至ったようです。

中野企画課長からの熱いオファーに快諾させていただいた後、舞鶴海上保安部の井上交通課長がその電話に替わられ、経ヶ岬灯台の暗弧板撤去の経緯など地域の方に興味深い話をしてほしいとのお願いがありました。

井上交通課長とは、かつて八管区で2回同勤しており、四管区においても本部、部署の関係ではありましたが、河芸マリーナでのイベントなどで連携して仕事をしており、私の過去の講演実績のことも良く知っておられ、主催者から海保の講演者の推薦を求められた際、真っ先に私に白羽の矢を立てたそうです。

## 3 講演概要

今回の講演については、主催者から「現役の航路標識について」という演題にて依頼されたことから、基本的な航路標識の設置例や私が関わった航路標識整備工事中の設計者でないと思われにくい珍しい写真を見て頂き、分かりやすい、勉強になるを心掛け、面白おかしく語らせていただきました。

特に、経ヶ岬灯台などの歴史的灯台は、海上保安庁

も灯台が観光資源として活用されるよう定期的に化粧直しを行ったり、一般公開を行うなど地域の観光支援に繋がるよう対応していることをお話させていただきました。

また、「今般の灯台機器は新しい機器に換装されつつありますが、経ヶ岬灯台の第一等フレネルレンズと水銀層式回転機械は、建設当時から機器がそのまま現役使用されており、オリジナルが残された歴史的文化的価値が高い灯台で、今後もうこういった機器は、現灯台で大切に残してほしい。」と私の思いを述べさせていただきます。

さらに、私が関わった経ヶ岬灯台の暗弧板撤去や日時計の里帰りに係る経緯や裏話などについてもお話させていただきます、興味深く聞いていただきました。

講演終了後は、聴講者の方から、「実際に、その灯台の設計などに関わった人の話は、とても説得力があつて勉強になりました。」との嬉しいお言葉をかけていただきました。

なお、今回の講演には、灯台ファンで燈光会会員でもある麻生嶋さんが、遠方から今回の講演会に足を運んでいただき、講演終了後には、花束とお土産をいただきました。

麻生嶋さんとは、私が尾鷲海上保安部在勤中の平成26年11月に三木埼灯台（三重県尾鷲市）の一般公開に來られたのが初めての出会いで、「愛犬とともに全国の灯台巡りをしている。」と伺いました。当時、現場にて灯台の話を麻生嶋さんに少しお話をさせていただきましたところ、大変興味を持たれたようでしたので、「灯台に興味があるのであれば詳しくお話させていただきますので、また遊びに来てください。」と伝えていたところ、翌年に私を訪ねて尾鷲海上保安部まで来ていただき、日本灯台史について1時間たっぷりお話を聞いていただきました。

麻生嶋さんは、今回の講演は、私にとつて最後の講演であることを知っておられ、忙しい中、会場にお越



経ヶ岬灯台に係る説明

しいいただき、花束を用意してくれ、本当にありがたく、感謝と感謝の気持ちで一杯でした。

#### 4 おわりに

講演会は、通算11回目となりましたが、部署にて企画したのは3回で、8回は部外からの講演依頼によるもので、人との繋がりに本当に感謝していることです。

また、通算8年間お世話になった八管本部を通し、京都府内にて11年ぶりに仕事をさせていただき、少し恩返しのできたのではないかと思います。

11年ぶりに訪れた舞鶴は、随分飲食店などの街並みも変わっていましたが、昔のたたずまいは、懐かしさと当時の思い出を蘇らせてくれました。

特に、今回宿泊させていただいた「霞月旅館」は私が8年間、公私ともに大変お世話に



講演終了後の模様

なった料理旅館で、11年ぶりに女将さんに会えたことが、とても嬉しかったです。

霞月旅館は、私が八管本部勤務時代に灯台記念日祝賀会など大切な行事の際には、お世話になっており、1902年創業の老舗旅館であり、特に大広間は格式の高い折上<sup>おりあげてんじょう</sup>天井が採用され、かつて皇族の方も宿泊されたことのある名門料亭です。5年前に大幅な改修が行われたそうで、各部屋は新築同様に模様替えが行われており、快適そのものでした。

霞月旅館での夕食は、旧職場での仲間にも囲まれ、昔話に花を咲かせ、楽しく過ごさせて頂きました。

令和4年度末をもって、海上保安庁を完全退職するにあたり、本講演が最後の業務となり、関係者の方々に最後の花道となる講演会の機会を与えていただいたことは、感謝の気持ちで一杯であり、本当に幸せであったと思います。



霞月旅館の模様

# 屋久島灯台での出合

## (1) 屋久島灯台臨時滞在業務

普通会员員 岩尾 亮一

私達が日ごろの暮らしの中での会話で「屋久島灯台」と言って「何処の灯台」と会話が進められ、質問される事は無いのではないかと思います。それくらい皆さんにとって屋久島は身近な島で名前を知られた島ではないでしょうか。日常生活で大切な気象予報でさえもNHKのテレビ放送では九州の南海域の予報は「種、屋久地方」と表現しています。「種」は当然、種子島の簡略表現であり、屋久島は表現通り九州南海域の島として良く知られた屋久島です。

ところが、屋久島に住んでおられる方々は普段の生活・会話の中では同灯台を屋久島灯台と呼ばれません。ほとんどの方が「永田の灯台」と言われ呼ばれます。つまり、同灯台の立地している岬の名前で屋久島灯台を表現されるのです。「永田の灯台」の名称は灯台の名称付与基準から間違いではないのですが、屋久島灯台が整備されたのは、我が国が、明治時代の日清戦争後に台湾を治めることになってからで、台湾航路

開設のため整備した沿岸大型灯台であり、航路を航海する船舶の視点では屋久島灯台の名称に違和感なく、灯台の名称付与基準にそっています。あらためて灯台の名称付与基準には大きな幅があることに気がつく今でもあります。

もう一点、普段の認識の中であまり知られていない事ですが屋久島の歴史を紹介しましょう。

屋久島は江戸時代には薩摩藩を治めた島津家が領主として治めています。島津家は皆さんご存知の通り徳川家に仕え薩摩藩を治めた名家であり、江戸時代幕末から明治維新にかけて活躍しました薩摩、長州、土佐の三藩の力をまとめ、中心となって尊王攘夷運動を進め明治維新を成し遂げたことは学校での歴史教科書で学んでおられる事でしょう。江戸時代幕末まで種子島、屋久島は薩摩藩の領地であり、島津家に仕えていた領主、種子島家が種子島に居住し治めていたのですが屋久島には領主がいません。種子島は領主として種子島家が治めています。

最初から少し灯台の話題から離れてしまっています。近年になって屋久島が良く知られるようになった事についてどうしてそのような流れになったか、私なりの体験を通じて感じている事にふれてみようと思います。

皆さんご存知の通り種子島は山岳の少ない平坦な細長い島ですが平地が多く田畑が広がる島です。逆に屋久島は海岸から直ぐに数百メートルの山がそびえ、島を守るように繋がる山岳の島であり田畑が少なく経済的に領主の支配が難しかったと言えるのではないでしょう。そこで田畑の多い種子島の種子島家が屋久島も治め島津家に仕えていたと考えていいのではないのでしょうか。あくまで鹿児島県内での転勤を重ね、合計17年間の居住年数を重ねた鹿児島島の歴史を深く研究したことのない私の実体験の所見ですが。

また、「屋久島はひと月に三十五日雨が降る」と言う格言もあるぐらい雨量の多い島です。この雨のおかげで樹木が大きく成長しますが海岸近くに名の知れた滝、瀑布が幾つもあり、屋久島灯台の紹介の航空写真からも理解していただけますように屋久島は急峻な岩石の海岸ですから大きく成長した樹木は切り出しには相当の高い技術と予算が必要と言えます。この大きく成長した樹木が切り出されて利用されるようになるのは江戸時代後期とも言えると思います。そこで江戸時代の建築技術の発展と共に、縄文杉の名称で屋久杉が建築材として価値が認められ利用されるようになります。屋久杉の産地として世界的に有名になります。

明治、大正、昭和の時代の流の中で屋久杉の保護を目的とした原生林自然環境保全等の指定、そして平成の時代に組織化された屋久島世界遺産センター指定とつながります。屋久島が私達にとりまして身近な島であることの由縁と考えることは間違いないと言えるでしょう。

明治時代になって「西洋に追い付け追い越せ」のキヤッチフレーズの言葉どおり我が国が世界に進出していく時代の流れの中で海上交通を確保する目的のもとに屋久島西岸の永田岬に灯台が明治二十八年に整備され、沢山の歴史を重ねながら、また沢山の方々の思いを包み込みながら現在に至っている事は間違いありません。

私には屋久島灯



昭和40年代当時の屋久島灯台航空写真

台を管理していた鹿児島航路標識事務所の勤務経歴はありませんが逆に客観的視線で灯台守の出会いと地域との絆を紹介できるかもしれませんので半世紀も前のこととなりますがご紹介してみようと思います。

昭和四十四年三月、私が海上保安学校を卒業し初任の第十管区海上保安本部管内の野間池ロラン航路標識事務所勤務時代に屋久島灯台との出合が始まります。

灯台科一七期生二十八名が海上保安学校を後にし、その内三名が第十管区海上保安本部の事務所へ発令され、うち一名が鹿児島航路標識事務所へ、その同期生との交流の中で最初の屋久島灯台との出合が始まります。

同期生の一人、F官は海上保安学校学生時代からスポーツは万能、勉強も上手にこなし、外出許可の日には舞鶴近郊の各地に自転車で行っていました。夏の暑い日は訪れた地の海岸で泳ぎ、磯の大物の魚を射止めるのも朝飯前、その他種々の手作業においても大変上手で、鹿児島航路標識事務所の勤務は適任であったと思います。当時、鹿児島航路標識事務所は昭和三〇年代に進められた事務所の統廃合、集約に伴い鹿児島湾から薩摩半島、大隅半島の航路標識を見回り管理すると共に大型沿岸標識の種子島灯台、屋久島灯台、佐

多岬灯台、臥蛇島灯台を滞在管理する大規模事務所であり、着任した同期生は滞在業務に邁進する日々であり、事務所勤務で休みになると私の勤務地である野間池ロラン航路標識事務所へ遊びに来て各灯台の滞在業務での沢山の出来事について豊富な話題をもたらしました。

そして着任してから一年を過ぎた頃だったと記憶していますが、当時は各家庭にマイカーが普及した時代、同期生は車を購入、なんと乗ってきた車はトヨタの高級車、カローラカスタム、滞在業務での旅費等に恵まれてローンの返済も余裕があるように感じました。その時、私はロラン局の当直勤務、そして無線機器の保守メンテナンスの習熟、第2級無線技術士の資格取得に勉強する日々でした。同期生の話に指を咥えながら聞いていた私は背中を押されます。当時、単車の製造販売が中心であった「ホンダ」が軽自動車「ホンダN360」を販売します。私も鹿児島市内の販売店でローンを組みマイカーを所有する若者になりました。昭和四十年代後半は正に一家族に一台の自家用車が普及していく時代であったことが思い出されます。

ロラン局勤務の中で「屋久島灯台との出合」は広がり深まります。ロラン局勤務において同勤の方で、年

齡的に私より一回り先輩で集約以前の屋久島灯台で勤務された方がおられました。私の指導教官的存在。無線回路の動作原理、普段の勤務時の心がけから無線局での勤務時間外の自由時間の過ごし方まで教わっていました。当時の海上保安庁灯台部には管区本部、本庁で活躍されておられる卒業生が沢山おられ第一級無線通信士、第一級無線技術士の資格を所有され、ロラン局で同勤した先輩は無線局の通常の執務業務には精通されていたことが記憶に残ります。

ロラン局で定期点検作業が終わりますと当直者以外には自由時間ですが局から離れるわけにはいきません。年齢で私より一回り先輩は無線舎のホールで私への囲碁の特訓となり碁石を並べながら、さらに様々な事柄や出来事について話が広がります。当然、屋久島灯台での業務、生活、暮らしぶり、地域の方々との交流の話や職員同士の懇親会の話題等。懇親会で食べ物や、お酒が切れますと私にとって指導教官の先輩が灯台から一番近い永田の集落まで購入に1里強の人道を走られたとの事。当時は屋久島一周の車の通行可能な道路は未整備で、海岸に沿うように人道のみの時代です。

灯台が立地する永田岬に数家族の待息所や住宅があり、居住しておられた時代でもあった事から1里強ほ

どの道を買物に行くことは日常であったようです。この様に私の同期生や指導教官であった先輩の話で屋久島灯台の地域の絆を聞かせていただきながら野間池ロラン局での勤務を一年半ぐらい続けていた時に局での職員全体会議で所長さんから「鹿兒島航路標識事務所から管区本部を通して滞在業務に職員派遣依頼が来ている」との事、突然の依頼でした。

私はロラン局勤務が身について来て慣れてきた時期でしたので灯台と地域の絆の話題に満ちていた私は即座に手を挙げてしまいました。ロラン局職員皆さんのご配慮の元、私が派遣されることになり若い職員の出遣を受ける鹿兒島航路標識事務所でも種々検討され、臥蛇島灯台、佐多岬灯台の滞在は無理と判断され屋久島灯台の滞在に行くことに決定されました。いよいよ本格的な「屋久島灯台との出合」の始まりです。

指定された滞在交代日の前日に鹿兒島航路標識事務所へマイカーのホンダN360で出発し事務所着、運用課長から滞在中の業務、定期船での交代について説明があり、事務所の当直室で一泊し翌日の朝、年配で大先輩の課長さんと共に定期船で屋久島の宮之浦港着、港の埠頭で事務引き継ぎ、昼過ぎに屋久島灯台に入りました。簡単に昼食を済ませ、灯台の施設、運用

の説明を受け夕刻には夕食の準備を申し出て本格的に十五日間の滞在業務をスタートさせました。食事を作ることはロラン局で十二分に経験していることで不安は無く、炊事に前向きになれる自分でしたが、先輩が作られた食事は、食べる時に何となく抵抗を感じる私でもありました。

振り返って見ると食事当番の申し出は大正解でした。十五日間の滞在中で食料の調達も重要な業務であり永田集落の行きつけの商店に立ち寄ります。食事当番は商店や地域の方々との交流では主役なのです。海上保安庁の通常作業時の作業服を着て若い私が野菜、肉、魚等を注文するわけですから店の女性主人は私が注文する前に、若い私を助ける心だったのでしよう、野菜、肉、魚などをそろえて通常の販売価格より安価に手渡してくれた記憶が浮かびます。私は、お店の方々とは初対面ですがお店の方にとっては灯台守として昔からの知り合いではないにしても「私の考えている事は知ってますよ」と言っているような雰囲気でした。正に惣菜が導く灯台と地域の方々との絆の世界に自然に入って行ったわけです。

本業の滞在業務は、若い私の出番の前に先輩主導です。まず、電源の扱いについて説明を受け、当時沿岸

標識としての灯台の電源の中心であった発動発電機（OL9A）の起動から始まるとの説明であったことを思い起こします。当時の記憶は薄くなりましたが、まず、発動発電機（OL9A）の起動です。そして灯台の燈籠のカートンを開け灯火点灯、スムーズなフレネルレンズの回転を確認し、そして対岸の口永良部島のメガ先灯台の点灯も確認し、日誌に記入後、夕食になります。（日によって順番は変わっていたと思います）

ロラン局で勤務していた私にとって初めての本当の灯台守の日々の始まりでした。はっきりした記憶は薄くなりましたが小型の発動発電機（OL9A）が3台、スリーエンジン方式の電源です。加えて中型の発動発電機1台が電源室で現用であった記憶も残ります。

滞在中の作業の中心は本灯維持のための3台のOL9Aのうち一台のシリンダーヘッドのカーボンを清掃することがノルマとのことでした。保安学校での実習で経験した二年後の作業であり何となくスムーズに完了しましたが最初の試運転でOL9Aが大きな音を立てて回転した時はホッとすると同時に一人前の灯台守の自分が見えて心から微笑みが出て嬉しくなりました。それが思い出されます。そして屋久島を一周しながら、十基位あったと記憶していますが屋久島の港湾の

防波堤灯台等の定期見回り、ついでに食料等の調達も  
行い、先輩の指示で屋久島を一周して、その日のうち  
に済んだ記憶が残ります。途中、灯火看守補助員の方々  
や平素お世話を頂いている方々に挨拶もあり、新人と  
して紹介されました。

「どちらから来られましたか」

「海上保安学校を卒業し大隅半島にあります野間池  
ロラン航路標識事務所、新米職員として無線局で勤務  
してまして臨時での屋久島灯台滞在勤務です」

「そうですね、大変ですね、ご苦労様です」

「宜しくお願いします」

これまで屋久島灯台で灯台守として勤務されてこら  
れた方々と地域の方々との絆を感じさせる言葉ですが、  
その時は初対面の灯台守としての若い私への歓迎の言  
葉と受け止めるだけで、航路標識業務を四十年、そし  
てOBとなり十五年を経て、今になって灯台守と地域  
の方々との特別な絆、愛情に気持ちを良くしている私  
でもありました。

また屋久島灯台が立地する永田岬の先端の岩場には  
永田集落の守り神の一つだったのでしょうか、地蔵様  
があり永田集落の方々は御参りに来られます。その時、  
灯台待息所の玄関前を通られるとき必ず声をかけら

れ、滞在の灯台守が自炊しているのを知っておられて  
惣菜を置いて行かれるのです。夕食の惣菜には屋久島  
の特産的なお魚の煮付け等の一品が加わる事になりま  
す。お逢いした時、当時は感じなかったのですが退職  
して今になって様々な出合を思い出している現在です。

灯火を点灯させ対岸のメガ埼灯台の灯火点灯を確認  
している時は考えることもなく職務として日々の務め  
を果たすことが中心であったことが思い出されます。

日々の務めの中で大切な食事は、冷蔵庫の中と相談し  
ながら少しでも御馳走に近づけます。そして、食事を  
しながら沢山の経験を積まれている先輩から炊事の指  
導と話題は尽きません。話題の中心は先に紹介しまし  
た臥蛇島灯台、種子島灯台、佐多岬灯台、そして当地、  
屋久島灯台での滞在時の出来事が沢山ありました。臥  
蛇島にはまだ住民が住んでおられ、小学校もあった時  
代ですから島に定住している若い青年が灯台を訪問し  
てきて色々話をした事など、食事をしたながらの話で  
すから滞在交代日を計算に入れない日はありません。  
切に使うかが話題にならない日はありません。

屋久島灯台、種子島灯台は定期旅客船で滞在交代を  
実施していましたが、交代日が大きく延長されること  
はありませんでしたが、臥蛇島灯台、佐多岬灯台は事

務所所属の灯台業務用船「ずいん」での渡海交代に  
なり、天候の影響を受けます。食料の中心、米、味噌、  
醤油、砂糖、塩は十分余裕をもって備えています、  
野菜、肉等は難しい扱いになります。自然に海岸での  
釣りなど食料確保が大切となり、食事の話の内容に  
は熱が入ります。私は基本的には山育ちであり釣りの  
話は「話の話」で終わったのですが、海で泳いで貝の  
採集、銚での魚の捕獲は私にとっては「話の話」でな  
く熊本の日本三大急流の一つ球磨川で実践済みであり  
屋久島灯台の海岸の具体的穴場の話に広がり、先輩の  
指導の基に天候と潮時を見て実戦となりました。私の  
成績は上の上、御蔭で冷蔵庫の中は豊かになり食料の  
心配も薄らぎ先輩との食事の話は最も楽しい時間に  
成長しました。

歴史を重ねた灯台と地域の方々との絆、そして心の  
交流を感じさせる特別な思いを起こさせてくれていま  
す。海上保安官としては、まだまだ新米職員の私が映  
画や小説等で知っている灯台台守の体験をさせてもら  
っている状況であり十五日間の屋久島灯台の滞在は貴  
重な体験となりました。

野間池口ラン局の当直勤務に帰着し、次に待ってい  
た事は口ラン当直勤務における屋久島灯台での滞在勤

務についての報告です。特に集約以前の屋久島灯台で  
勤務された指導教官から多岐について逆に質問があり  
ました。

まだ経験が浅い当時の私は永田集落と屋久島灯台の  
絆の強さを印象づけられる話として思い出されます。  
しかし灯台の仕事を卒業し十六年、人生の終盤を迎え  
た今になって灯台と地域との絆の強さを感じていま  
す。先輩灯台台守の皆さんが厳しい環境の下、家族と共  
に業務を正面から受け止め、地域の方々とも正面から  
交流し海の安全に寄与して来られた賜物と言えるので  
しょう。沢山の思い出が浮かびます。

米国コーストガードから引き継ぎコーストガード隊  
員の生活の痕跡も残る野間池口ラン局で無線業務の修  
練を受けながらの屋久島灯台滞在中でしたが灯台守と地  
域の絆について沢山の勉強をさせていただきました。  
そして転勤を重ね第十管区海上保安本部灯台部監理課  
勤務であった時、平成八年に屋久島灯台が点灯百周年  
を迎え、この時の経験が大きく牽引し助けられる私で  
した。

次に灯台と地域との絆の基に開催されました「屋久  
島燈台点灯百周年記念式典」に続きます。



…十管区…

## 灯火を見守って72年！ 有終の美を飾る

このたび、当部所管の「満越ノ瀬戸灯浮標」、「高李島北東方灯浮標」の灯火を監視されてきた小幡保様(95歳)が有終の美を飾られました。

小幡様は、当庁が創設されて2年後の昭和25年に「満越ノ瀬戸灯浮標」の監視を始められ、実に72年の長きに亘り灯火を見守ってこられました(「高李島北東方灯浮標」は昭和53年から監視)。全国の灯火監視協力者の最年長で、監視の最長記録を更新されていましたが、このたび、灯火監視を辞退したいと残念な申し入れがありました。

まだまだご健在で、監視を続けて頂きたい気持ちも強かったのですが、元気なうちに区切りをつけたいとの意思を尊重し、せめて、これまでの感謝の気持ちを込めて解囑状の伝達式を計画することとしました。マスコミの取材も考慮し、日時、場所を検討していたところ、仰々しいことは遠慮するとの返答に焦る場面もありましたが、伺って趣旨を説明し、どうにか最後の花道をお膳立てすることができました。

かくして、3月27日(月) 自宅近くの公民館をお借りして解囑状の伝達式を実施しまし



満越ノ瀬戸灯浮標



高李島北東方灯浮標



表彰の数々、大切に飾られていました

た。第十管区海上保安本部交通部長から感謝状の贈呈もあり、併せて熊本海上保安部長から小幡様に手渡されました。日本一を強調して広報をしたところ、多くのマスコミ（テレビ局3社、新聞2社、地元自治体）の取材がありました。長年の思い出に限らず航路標識の役割や重要性も交えてお話をされ、最後に当庁業務のPRにも大きく貢献して頂きました。立ち会った職員も、笑顔で取材に応じられる姿を見ていて、今までのご苦労に対し、自然と感謝の気持ちが届み上げてきました。

「小幡様、長い間灯火を見守って頂きありがとうございます。」

【小幡様との会話より】

「孫に助っ人をお願いしたこともあったが、監視を怠ったことは一度もありません。最近では体調が優れない時もあり、ここらが潮時でしょう。後任も決めて、もう引き継ぎも終わっているのだから安心してください。」

「一番の思い出は、灯火監視の功績で平成4年秋に叙勲されたことです。勲章と記念写真は大切に飾っています。」

「今も晩酌は欠かせません。量は控えめで焼酎を薄くして飲んでいきます。元気の源です。」  
（熊本海上保安部）



小野熊本部長から解囑状、感謝状の伝達



取材を受けられる小幡様（長時間の取材にも元気に対応されていました）



監視標識の見渡せる場所で新旧交代



小野熊本部長と記念撮影



ご家族、ご親戚も加わって記念撮影 『小幡様ありがとうございます!』

## 奄美群島初LED照射灯 海上交通の安全のために

3月15日、奄美大島笠利湾の海のみちしるべ「竜郷港阿丹埼北東方照射灯」は奄美群島で初めて光源にLED（発光ダイオード）を使った照射灯に生まれ変わりました。

笠利湾は奄美大島の北部に位置し、古くは奄美群島が琉球に従属した時期から琉球との船による交易が盛んで、江戸初期1609年に薩摩藩が琉球を統治してからは、薩摩藩の役所などが置かれ多くの船が出入り、明治維新で活躍した西郷隆盛が潜居を命じられた時の潜居跡もあります。現在では奄美大島最大の九州電力龍郷火力発電所などが有り、石油などの船による輸送や荒天時の船の避難場所として重要な湾となっています。

照射灯は光源がこれまでのメタルハライドランプからLEDになったことで消費電力が200Wから128Wへ

約0・64倍、光源の寿命が6千時間から4万時間へ約8・3倍、メタルハライドランプは瞬間停電でも再点灯に20分以上かかるためUPS（無停電電源）が必要ですがLEDでは不要となり、性能が向上し維持コストも大きく縮減されました。

奄美海上保安部は、外海離島である奄美群島の安全安心に努めます。

（奄美海上保安部）





夜間の照射状況



昼間の状況

### 3年4ヶ月ぶり

#### 国際クルーズ船入港

〜コロナ禍も和らいで〜

3月23日、奄美大島の名瀬港に3年4ヶ月ぶりに国際クルーズ船が入港しました。

入港したのは、セブンシーズエクスプローラ（バハマ船籍、55254トン）で14日に東京を出港し、前寄港地の長崎から10時30分に観光船パースに着岸、乗客約650人が奄美大島の美しい自然や文化を楽しみ、18時には次の寄港地の那覇に向けて出港しました。

コロナ禍も和らぎ、今後、島外からの観光客の増加が見込まれます。奄美海上保安部は、住民や来島者が安心して安全に奄美群島の豊かで美しい自然を楽しめるように、マリインレジャーなどによる海の事故防止に努めます。

（奄美海上保安部）



## 第14弾

# のほねる灯台(16基) スタンプラリー達成者

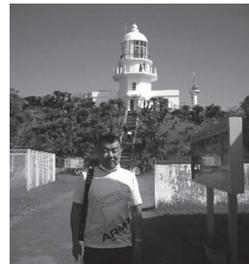


全国北から南までの16灯台巡っていただき、誠にありがとうございました。  
達成者の皆様、おめでとうございます！

### 第102号

栗山 一之 様(50代)大阪府東大阪市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和4年9月11日 潮岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年10月15日 都井岬灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ HPを見て。
- ☆ 16か所巡った感想 遠かった。



### 第103号

H.H 様(60代)岐阜県在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和4年3月30日 大王埼灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年10月18日 平安名埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ コンプリート達成する為

### 第104号

麻生 秀樹 様(54歳)東京都世田谷区在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和1年9月7日 潮岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年10月22日 平安名埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ 潮岬灯台でスタンプ帳を買ったため。
- ☆ 16か所巡った感想 コロナもあって時間がかかり大変でしたが、達成できて良かったです。

第105号  
(同着)

まゆこ 様 東京都品川区在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和2年9月21日 都井岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年10月22日 尻屋埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
灯台が好きなので。
- ☆ 16か所巡った感想  
達成しました。嬉しいです。

第105号  
(同着)

かやこ 様 東京都中野区在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和2年9月21日 都井岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年10月22日 尻屋埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
友人の紹介。
- ☆ 16か所巡った感想  
行った先の旅行も合わせて、すべて最高でした。大変に嬉しいです。

第107号

KUMA 様(40代)岐阜県在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日  
令和4年5月29日 潮岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日  
令和4年10月27日 出雲日御碕灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
かんばんを見て。
- ☆ 16か所巡った感想  
達成感がすごいです。天候により観覧出来ない時もあり大変でした。



## 中村 倫也 様(32歳)東京都在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和3年2月23日 出雲日御碕灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年10月29日 平安名埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
映画「ハナミズキ」で灯台の魅力を感じた為。
- ☆ 16か所巡った感想  
全国巡り、大変楽しかったです。引き続き他の灯台を巡ります。

## 楠橋 信男 様(64歳)大阪府寝屋川市在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日  
平成31年3月22日 出雲日御碕灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日  
令和4年11月3日 角島灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ  
タワー巡りをされていて出雲で灯台ラリーを知り始めた。
- ☆ 16か所巡った感想  
私は運転免許を持っていないので、基本公共交通機関の利用で、先端の灯台へは行くのに苦労したが思い出も多い。



## 和 様(40代)埼玉県在住

- ☆ スタンプラリー開始年月日 令和4年5月2日 都井岬灯台
- ☆ スタンプラリー達成年月日 令和4年11月5日 尻屋埼灯台
- ☆ スタンプラリーを始めたきっかけ 旅の延長
- ☆ 16か所巡った感想 ようやく巡り終わった(3度目の正直)



# のぼれる灯台参観者数



平成30年度から令和4度の支所別過去5年間の参観者数は次のとおりです。  
(燈光会事務局)

## 支所別・過去5カ年の参観者数推移(平成30年度～令和4年度)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
尻屋埼	10,152	9,423	9,172	0	9,250
入道埼	12,927	19,588	11,580	12,847	19,746
塩屋埼	29,380	28,302	17,873	14,830	26,269
犬吠埼	104,538	90,659	66,974	78,767	110,330
野島埼	62,387	52,977	38,649	44,500	68,051
観音埼	35,348	33,723	18,065	29,289	32,589
初島	24,193	20,764	7,801	10,110	17,136
御前埼	25,223	22,586	17,427	17,268	22,537
安乗埼	14,656	13,805	13,373	16,676	24,174
大王埼	32,118	29,418	23,040	21,816	27,754
潮岬	60,907	53,432	34,434	37,310	50,930
角島	98,349	92,171	45,756	40,678	76,579
出雲日御碕	59,728	65,818	34,743	40,527	58,503
都井岬	32,928	31,743	23,280	22,328	41,129
残波岬	29,172	69,393	19,539	19,753	52,961
平安名埼	45,589	40,919	15,088	13,590	34,237
計	<b>677,595</b>	<b>674,721</b>	<b>396,794</b>	<b>420,289</b>	<b>672,175</b>

### ※特記事項

- 出雲日御碕灯台は、灯台緊急点検のため12月14日(水)から2月9日(木)までの間、参観業務を休止した。
- 都井岬灯台は、鉄塔基礎撤去工事等のため2月27日(月)から3月31日までの間、参観業務を休止した。

# 灯

# 台

# 絵

# 画

# コンテスト

# 2023

## 募集要項

2022 国土交通大臣賞

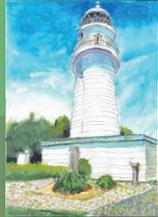
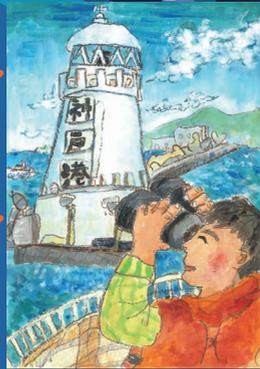
2022 海上保安庁長官賞

2022 中学生部賞

2022 小学生部賞

2022 小学生低学年部賞

2022 燈光会会長賞



令和5年  
応募締切  
9/11(月)  
(当日までに必着)

全国の小学生・  
中学生  
応募資格

テーマ  
灯台のある風景

### 応募先

〒105-0003  
東京都港区西新橋1-14-9  
西新橋ビル3F  
公益社団法人 燈光会  
TEL (03) 3501-1054  
FAX (03) 3507-0727

### 発表

小学生低学年(1年~3年)・小学生高学年(4年~6年)・中学生の各部門別に審査の上、令和5年10月中旬、入選作品を決定し通知するとともに、当会ホームページにて発表いたします。

### 応募上の注意事項

- ①応募者は、応募の時点で募集要項に記載の諸条件に同意したものとします。
- ②応募された作品は、応募を撤回された場合も含めて返却いたしません。
- ③応募作品の著作権、使用権は公益社団法人燈光会に帰属し、応募者の承認を得ることなく、発表、展示、印刷及び頒布する権利を有するものとします。
- ④当会が実施する過去のコンテストにおいて入賞した作品及び当会以外が実施するコンテストに応募中の作品は、このコンテストに応募できません。
- ⑤応募された方には、お礼として組巻(鉛筆3本セット)を進呈します。

### 応募方法

- 作品は、未発表のオリジナル作品に限りります。
  - サイズは、A3、B3、又はハツ切・四ツ切の画用紙とします。
  - 画材は、絵の具(水彩)、クレヨン、パスツル等消えにくい材料とし、鉛筆や木炭等は除きます。
  - 作品の裏面に次の事項を記入してください。
- ①題名 ②氏名(ふりがな) ③性別  
④生年月日 ⑤学年 ⑥住所・電話番号  
⑦学校名とその所在地・電話番号  
(学校等でまとめて応募する場合は、担当者名)  
⑧連絡先メールアドレス

### 賞

- 国土交通大臣賞**  
賞状及び副賞(回答カード)  
全作品から1名
- 海上保安庁長官賞**  
賞状及び副賞(回答カード)  
全作品から1名
- 燈光会会長賞**  
賞状及び副賞(回答カード)  
全作品から1名
- 賞状及び副賞**(回答カード)  
各部門から1名
- 銀賞**  
賞状及び副賞(回答カード)  
各部門から2名
- 銅賞**  
賞状及び副賞(回答カード)  
各部門から5名



主催 公益社団法人 燈光会

後援 海上保安庁

昭和三十一年一月二十四日第三種郵便物認可  
令和五年五月五日発行(隔月一回五日発行)

「燈光」

五月号 第六十八巻 第三号